

受益者の皆様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「大同リサーチ&アクティブオープン」は、2023年6月29日に第24期決算を行いました。

当ファンドは「大同リサーチ&アクティブ マザーファンド」を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

大同リサーチ & アクティブオープン

愛称:RAO(らお)

商品分類（追加型投信／国内／株式）

第24期（決算日 2023年6月29日）

作成対象期間：2022年6月30日～2023年6月29日

第24期末（2023年6月29日）	
基準価額	18,896円
純資産総額	2,266百万円
第24期	
騰落率	14.8%
分配金合計	200円

(注) 騰落率は収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当ファンドは、約款において運用報告書（全体版）を電子交付することが定められています。運用報告書（全体版）については下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記URL⇒ファンド情報⇒当ファンド名を選択⇒各種資料のダウンロード⇒「運用報告書（全体版）」を選択



T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

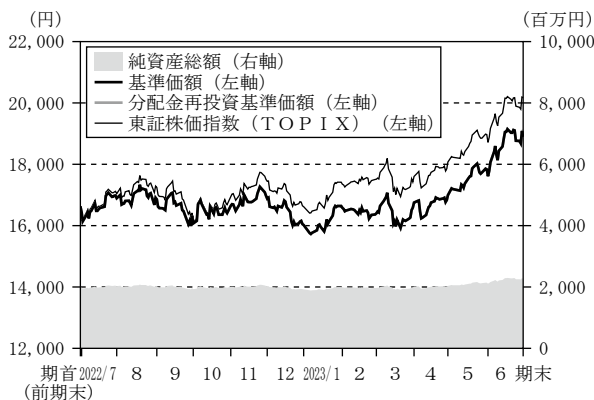
お問い合わせ先

投信営業部 03-6722-4810

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

<https://www.tdasset.co.jp/>

基準価額等の推移



第24期首：16,634円

第24期末：18,896円 (既払分配金200円)

騰落率：14.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首(2022年6月29日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは東証株価指数(TOPIX)【出所：JPX総研】です。

基準価額の主な変動要因

マザーファンドを通じて実質的に国内株式に投資しており、組入銘柄の株価変動が基準価額の主な変動要因となります。国内株式市場が上昇となる中で、組入銘柄の株価が上昇したことにより、基準価額(分配金再投資ベース)は上昇しました。

■ 組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
大同リサーチ&アクティブ マザーファンド	16.6%

* 東証株価指数(TOPIX)とは、株式会社JPX総研が算出する株価指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。東証株価指数(TOPIX)の指数値及び東証株価指数(TOPIX)に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数(TOPIX)の指数値の算出若しくは公表の方法の変更、東証株価指数(TOPIX)の指数値の算出若しくは公表の停止又は東証株価指数(TOPIX)に係る標章若しくは商標の変更若しくは使用の停止を行うことができます。JPXは、東証株価指数(TOPIX)の指数値及び東証株価指数(TOPIX)に係る標章又は商標の使用に関して得られる結果並びに特定日の東証株価指数(TOPIX)の指数値について、何ら保証、言及をするものではありません。JPXは、東証株価指数(TOPIX)の指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。また、JPXは、東証株価指数(TOPIX)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本件商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではありません。JPXは、本件商品の購入者又は公衆に対し、本件商品の説明又は投資のアドバイスをする義務を負いません。JPXは、当社又は本件商品の購入者のニーズを東証株価指数(TOPIX)の指数値を算出する銘柄構成及び計算に考慮するものではありません。以上の項目に限らず、JPXは本件商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても責任を有しません。

1 万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2022/6/30～2023/6/29		
	金額	比率	
平均基準価額	16,677円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	257円 (128) (110) (18)	1.540% (0.770) (0.660) (0.110)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	44 (44)	0.262 (0.262)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (監査費用) (その他)	2 (2) (0)	0.011 (0.011) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金銭信託に係る手数料
合計	303	1.813	

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

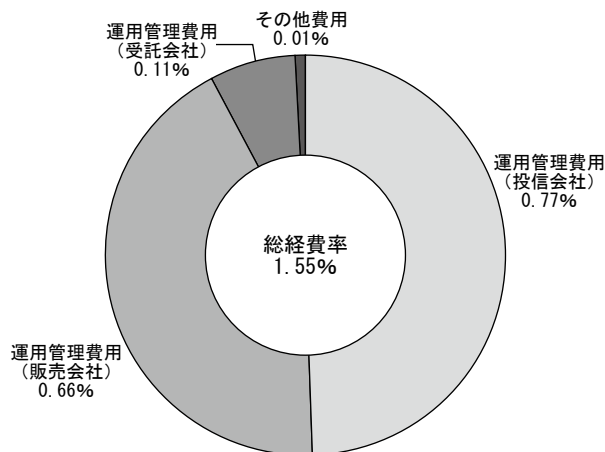
(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.55%です。



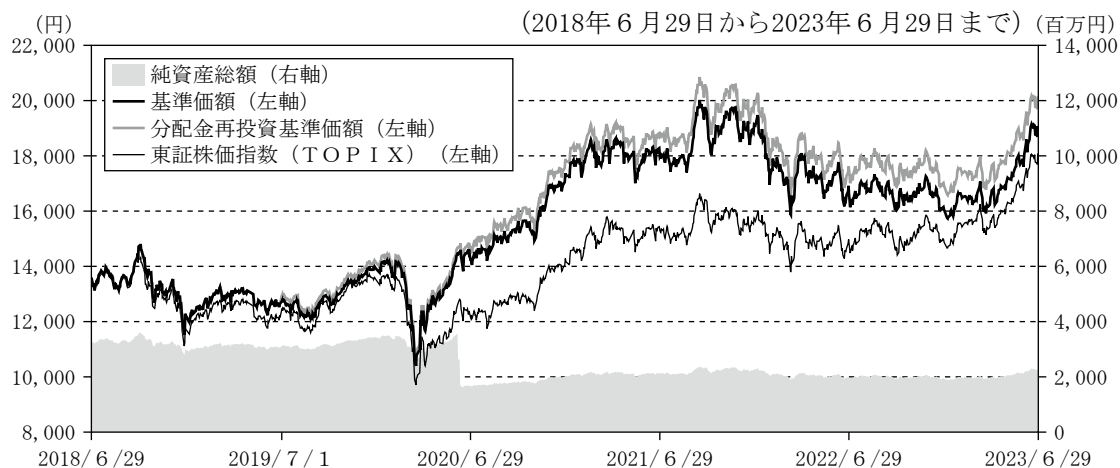
(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年6月29日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2018年6月29日 期初	2019年7月1日 決算日	2020年6月29日 決算日	2021年6月29日 決算日	2022年6月29日 決算日	2023年6月29日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	13,589	12,728	14,211	17,965	16,634	18,896
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	200	200	200	200	200
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△ 4.9	13.2	27.8	△ 6.3	14.8
東証株価指数 (TOPIX) 騰落率 (%)	—	△ 8.4	△ 2.2	25.8	△ 2.9	21.3
純資産総額 (百万円)	3,271	3,098	1,649	2,105	1,982	2,266

投資環境

■ 国内株式市況

国内株式市場は経済活動正常化による景気回復を受けて上昇しました。

前半（期首～2022年12月）は、参議院選挙での自民党の圧勝、円安ドル高の進行等を好感して上昇で始まりましたが、8月下旬にF R B（米連邦準備制度理事会）議長が景気より物価抑制を重視する強い決意を示したことや消費者物価高騰が続いたことから米国金利上昇が加速し、世界景気悪化懸念から9月末にかけて軟調な展開となりました。事実上の利上げとなる日銀の金融政策修正が発表され円高が加速したため、年末にかけて下落しました。

後半（2023年1月～期末）は、米インフレ指標鈍化や中国の景気回復期待、円安ドル高、次期日銀総裁人事の不透明感払拭、東証のP B R 1倍割れ企業に対する株価是正策実施要請などを背景に上昇基調となりました。3月中旬に米中堅銀行の破綻を契機に欧米金融機関の信用不安が高まり急落する場面もありましたが、経済正常化や訪日外国人急増による国内消費回復、自動車挽回生産による業績回復期待等から期末にかけて大きく上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオ

■ 当ファンド

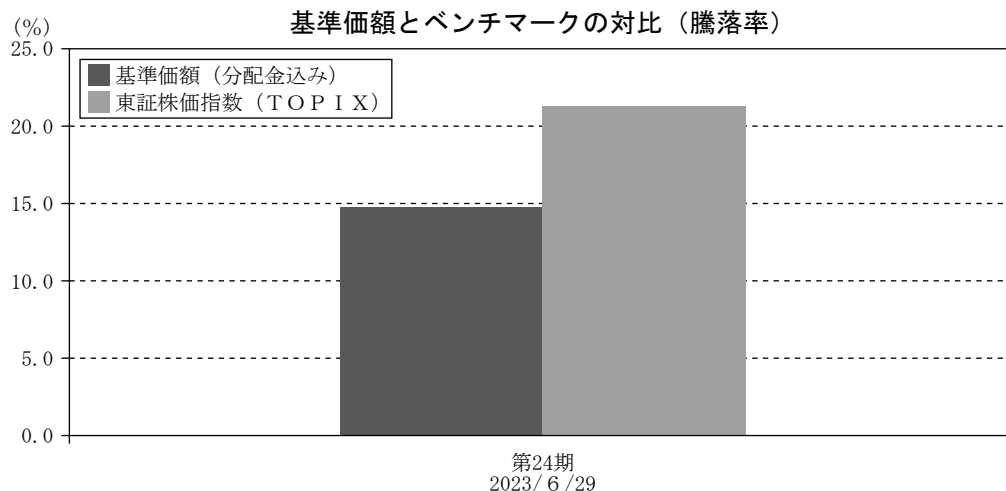
期を通じて「大同リサーチ&アクティブ マザーファンド」を高位に組み入れて運用を行いました。株式の実質組入比率は概ね高位で推移しました。

■ 大同リサーチ&アクティブ マザーファンド

銘柄選択にあたっては、「経済構造の変化」、「産業構造の変化」、「企業構造の変化」に着目し売上・利益等の成長力の観点から投資価値が高いと判断される銘柄に投資を行いました。組入銘柄数は、概ね60～70程度で推移しました。ベンチマークに対し組入比率の高い銘柄は、伊藤忠商事（卸売業）、スズキ（輸送用機器）、セーレン（繊維製品）、ホシザキ（機械）、日本電信電話（情報・通信業）等となりました。

（注）文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

当該投資信託のベンチマークとの差異



当ファンドの基準価額（分配金込み）は14.8%上昇、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）は21.3%上昇し、基準価額騰落率はベンチマークを6.5%下回りました。

マザーファンドでは、業種配分効果、銘柄選択効果ともにマイナス寄与となりました。業種配分効果では、騰落率下位のサービス業の組入比率をベンチマークに対して高めにしてしたこと、騰落率上位の電気機器の組入比率をベンチマークに対して低めにしてしたこと等が主なマイナス要因となりました。銘柄選択効果では、三菱UFJフィナンシャルグループ（銀行業）、三井不動産（不動産業）、オリンパス（精密機器）、リログループ（サービス業）、ダイセキ（サービス業）等が主なマイナス要因となりました。

分配金

1万口当たりの分配金（税込み）は基準価額水準、市況動向等を勘案し、200円とさせていただきます。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	当期
	2022年6月30日 ～2023年6月29日
当期分配金	200
(対基準価額比率)	1.047
当期の収益	200
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	9,590

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

■ 当ファンド

「大同リサーチ&アクティブ マザーファンド」を主要投資対象とし、同マザーファンドを高位に組み入れて運用を行います。

■ 大同リサーチ&アクティブ マザーファンド

東証株価指数(TOPIX)をベンチマークとし、これを上回る投資成果を目指して運用を行います。ボトム・アップ・アプローチにより売上・利益等の成長力の観点から投資価値が高いと判断される銘柄に投資を行うと共に、急激な経済情勢の変化や業界環境の変動等に応じ適宜マクロ・セミマクロ分析に基づいた業種配分の見直しを行います。

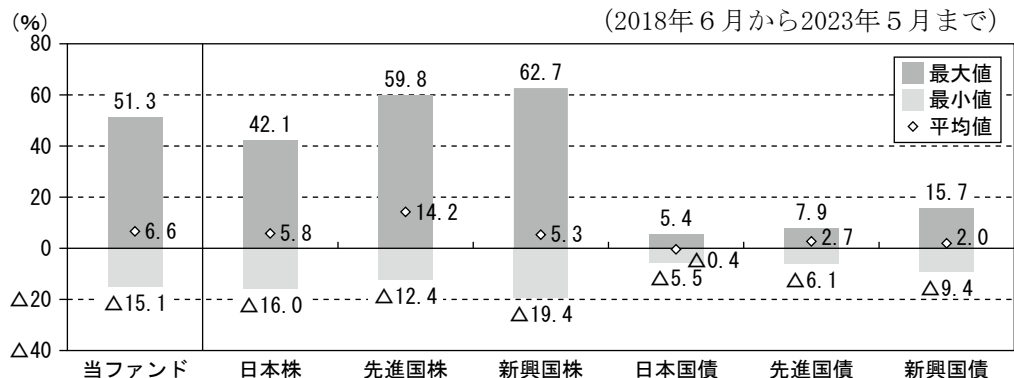
景気動向に関わらず技術力や商品力、販売力で収益性を向上できる企業、世界市場でシェアの拡大が可能な企業を個別に発掘する努力を継続します。

当該投資信託の概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式	
信 託 期 間	信託期間は原則無期限です。	
運 用 方 針	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とする大同リサーチ&アクティブ マザーファンド（以下マザーファンド）に投資することにより信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。 ボトム・アップ・アプローチにより財務体質、技術力、競争力等の観点から投資価値が高いと判断される銘柄に投資を行います。業種配分については、マクロ・セミマクロ経済分析に基づいて決定します。	
主 要 運 用 対 象	ベビーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式およびマザーファンドを主要投資対象とします。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
組 入 制 限	ベビーファンド	株式への実質投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分 配 方 針	分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

【参考情報】

■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) 上記は、2018年6月から2023年5月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) 当ファンドおよび代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 騰落率は直近月末から60ヵ月遡って算出した結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

○各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) ※1

先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース) ※2

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) ※3

日本国債・・・NOMURA-BPI 国債※4

先進国債・・・FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) ※5

新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース) ※6

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

※1 東証株価指数 (TOPIX) とは、株式会社JPX総研が算出する株価指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。TOPIXに関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研に帰属します。

※2 MSCI コクサイ・インデックスはMSCIが開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。

※3 MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した新興国の株式市場の動きを捉える株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。

※4 NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、日本で発行されている公募利付国債の市場全体を表す投資収益指数です。その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスを用いて行われるT&Dアセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

※5 FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

※6 JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、JPモルガン社が算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJPモルガン社に帰属します。

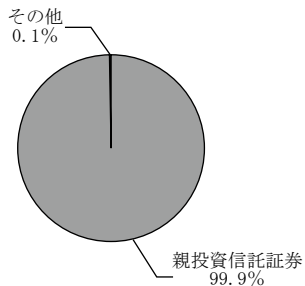
当該投資信託のデータ

当該ファンドの組入資産の内容

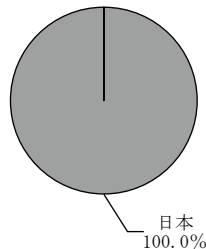
■ 組入（上位）ファンド（銘柄）

銘柄名	当期末
	2023年6月29日
	比率
大同リサーチ&アクティブ マザーファンド	99.9%
その他	0.1

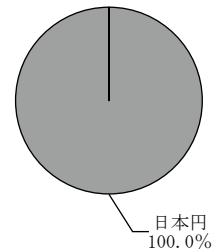
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 組入（上位）ファンド（銘柄）および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

純資産等

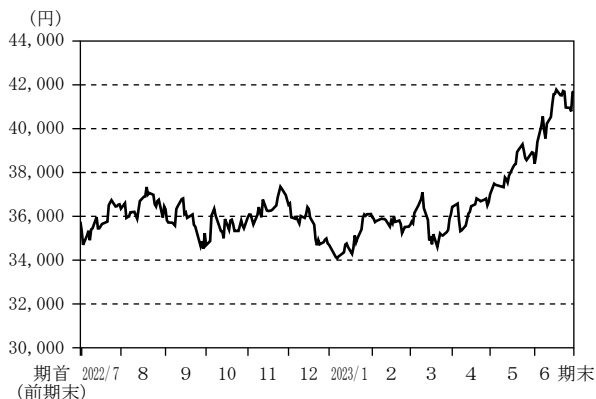
項目	当期末
	2023年6月29日
純資産総額	2,266,296,732円
受益権総口数	1,199,346,244口
1万口当たり基準価額	18,896円

(注) 期中における追加設定元本額は25,940,708円、同解約元本額は18,465,892円です。

組入上位ファンドの概要

大同リサーチ&アクティブ マザーファンド（2022年6月30日から2023年6月29日まで）

■ 基準価額の推移



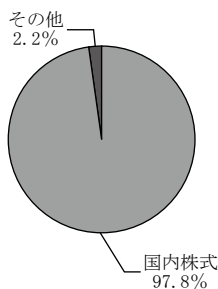
■ 上位10銘柄 (組入銘柄数：66銘柄)

銘柄名	業種	比率
トヨタ自動車	輸送用機器	3.7%
伊藤忠商事	卸売業	3.1
日立製作所	電気機器	3.0
三菱商事	卸売業	2.9
日本電信電話	情報・通信業	2.8
デンソー	輸送用機器	2.6
三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.5
キーエンス	電気機器	2.4
東京海上ホールディングス	保険業	2.4
ソニーグループ	電気機器	2.4

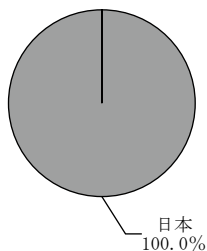
■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	2022/6/30~2023/6/29	
	金額	比率
平均基準価額	36,108円	
(a) 売買委託手数料 (株式)	95円 (95)	0.262% (0.262)
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合計	95	0.262

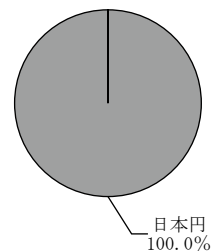
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 組入銘柄および各配分のデータは直近の決算日現在のものです。

(注) 組入銘柄および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

(注) 1万口当たりの費用明細は直近の決算期のものです。費用項目につきましては2ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。



T&Dアセットマネジメント株式会社